

経営比較分析表（令和6年度決算）

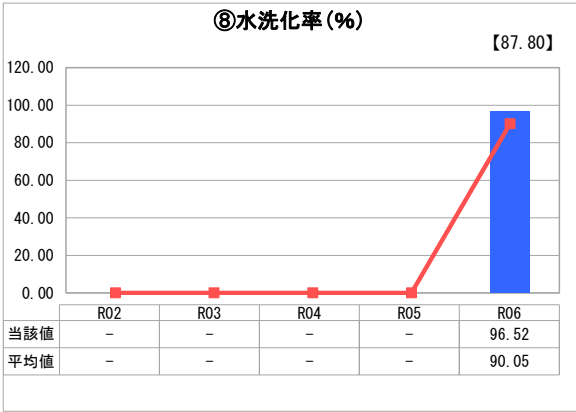
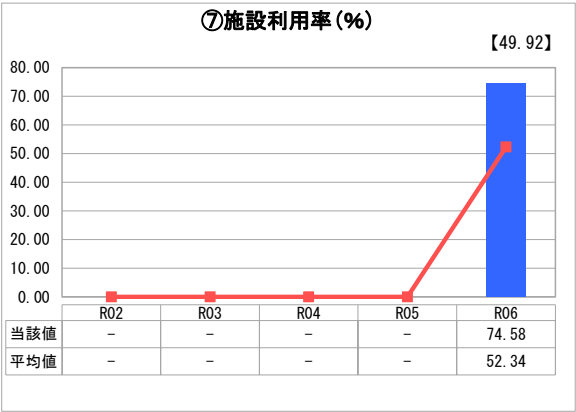
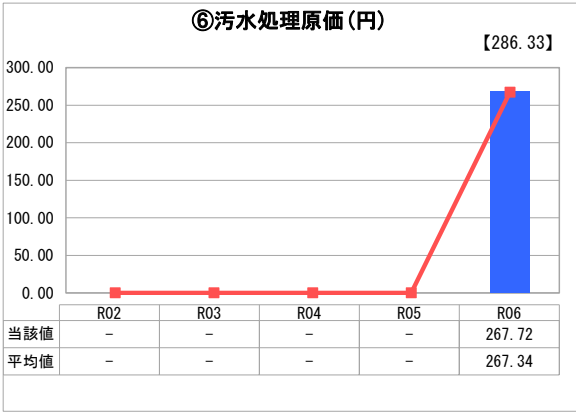
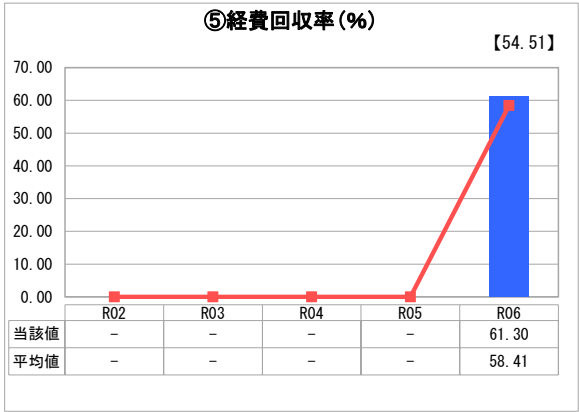
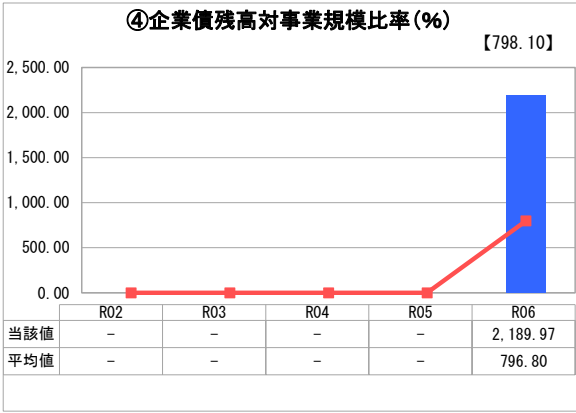
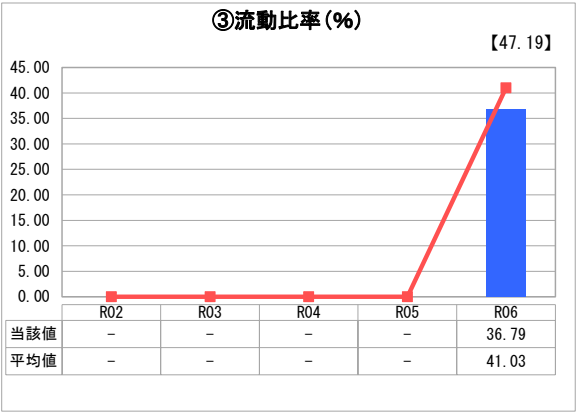
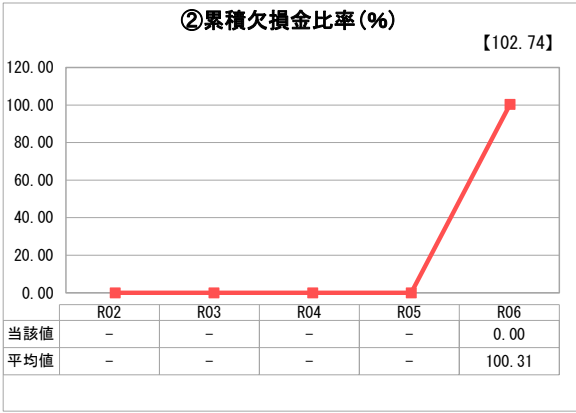
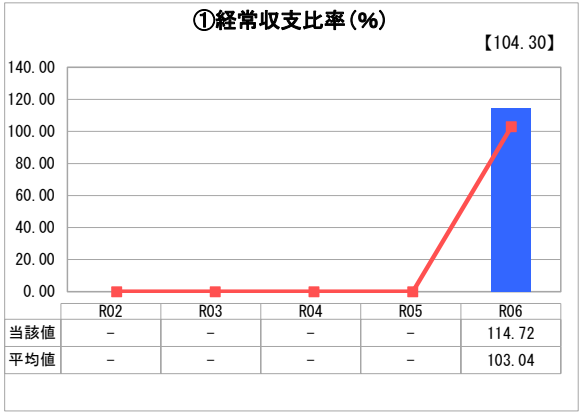
茨城県 ひたちなか市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	70.89	0.52	82.86	3,340

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
154,647	101.02	1,530.86
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
804	1.62	496.30

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②欠損金比率
経常収支率は100%を上回り経常黒字を維持し、欠損金は生じていないものの、一般会計からの繰入金に依存している状況である。
③流動比率
平均値より低く、支払い能力の安定性を高めるため、改善を図る必要がある。
④企業債残高対事業規模比率
平均値より大幅に高く、他団体と比較し債務規模が大きい。
⑤経費回収率、⑥汚水処理原価
経費回収率は平均値と同程度であるが、100%を下回っているため、経費削減や収入の確保を図るとともに使用料水準の検討を進める必要がある。
⑦施設利用率
平均値を上回っている。
⑧水洗化率
平均値を上回っているが、引き続き接続率の向上を図る必要がある。

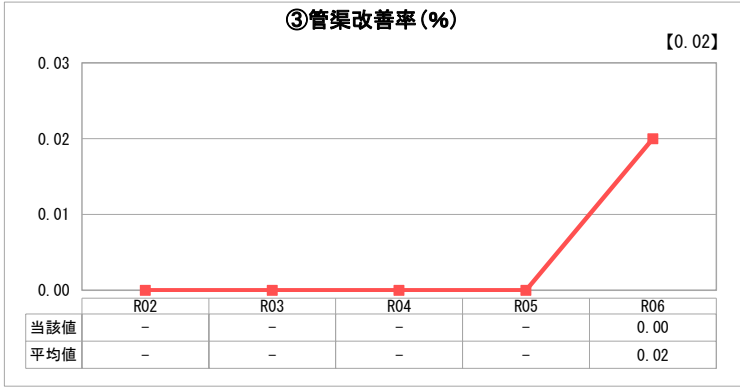
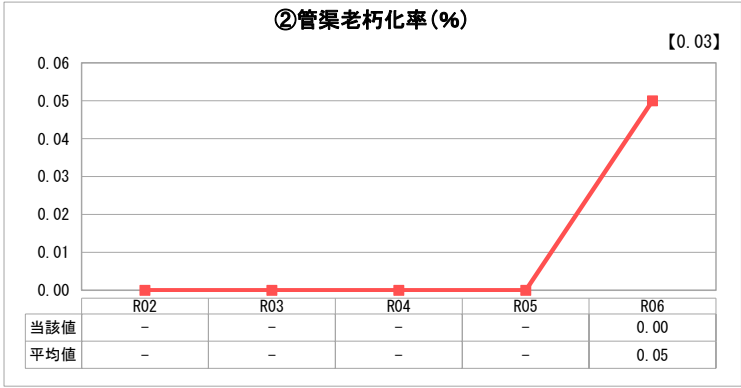
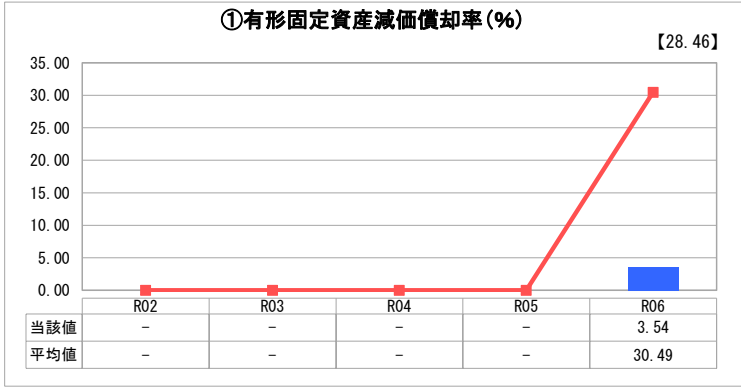
2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②管渠老朽化率、③管渠改善率
現状、管渠の老朽化は進んでいない。一方、処理場については老朽化が進行しているため、全体計画に基づき公共下水道への統合について検討・取組みを進めていく必要がある。

全体総括

○企業債残高の対事業規模比率および減価償却率を除き、概ね類似団体平均に近い事業運営となっている。しかし、公共下水道事業と比較して汚水処理原価が高い水準にあるため、経費削減の取組みを推進する必要がある。
○処理施設の老朽化が進行していることから、公共下水道への接続・統合に向けた検討・取組みを推進する必要がある。

2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。